

14. 調 査 ・ 報 告

ペンギン類の繁殖上の問題点と対策

平成11年1月1日の時点で、魚津水族館で飼育しているペンギン類はフンボルトペンギン(21羽)とイワトビペンギン(1羽)の2種でした。フンボルトペンギンは血縁上、近縁な集団になってきており、新しい血統の導入が必要でした。また、イワトビペンギンは飼育数が1個体で、新たな個体の補給も難しい状況であり、繁殖のためには繁殖可能な施設への移動が必要でした。

(太字の数字は血統登録番号)

☆フンボルトペンギン

フンボルトペンギン21羽は、飼育番号3番・10番(3番は死亡)のペアから生まれた兄弟が4羽と、7番・9番のペアから生まれた兄弟11羽の2系統が主となっています。さらに、この親ペンギン(10番・7番・9番)は新潟市水族館から来た個体で、10番と7番は兄弟関係にあります。つまり、これらのフンボルトペンギン18羽は、すべて血縁関係にあるわけである。

その他の3羽は、新潟から来た1羽(8番)が、繁殖に関与しておらず、また、平成8年12月11日に富山市ファミリーパークから、交換で導入した2羽(29番・30番)は集団に溶け込んでいません。

このような状況の中で、兄弟ペアや親子ペアが形成されており、血統的な問題が生じていました。

この問題を解決するには、新しい血統を導入する事が必要ですが、趾瘤症等の問題により、他の園館との交換は進まないのが現状でした。

そこで、最近、先進園館で行われ始めた受精卵での導入を新潟市水族館より行いました。譲り受けた2個の受精卵は、無事に孵化し、雛は順調に成長しています。

【経過】

平成11年2月9日 新潟市水族館から受精卵2個を保温ケース(37℃)に入れ、車両で運搬し、消毒後、子育て経験が豊富なNo.7-No.9ペアに抱かせる。

<受精卵>

受精卵①(1月14日産卵:オス親**662**・メス親**542**)

受精卵②(1月15日産卵:オス親**1071**・メス親**993**)

<雛①>

- ・ 2月23日:孵化(41日目)
- ・ 4月10日~4月30日:換羽
- ・ 4月30日:初めてプールで泳ぐ

<雛②>

- ・ 2月26日:孵化(43日目)
- ・ 4月13日~5月11日:換羽
- ・ 5月7日:初めてプールで泳ぐ

☆イワトビペンギン（ミナミイワトビペンギン）

魚津水族館では平成3年3月29日に4羽のイワトビペンギンを購入しましたが、平成11年1月現在、1羽のオス（256）だけがフンボルトペンギンと一緒に飼育されていました。当然1羽だけでは、繁殖が望めない状況で、原産国の輸出規制や、国内での繁殖状況があまり良くなく、新たな個体の導入は難しい状況でした。

そこで、繁殖実績のある東京都葛西臨海水族園に譲り渡すことにしました。魚津水族館には交換に若いオスのフンボルトペンギン（1402：1995年3月24日生まれ。オス親391・メス親932）を譲り受けました（魚津水族館35番）。移動は葛西臨海水族園の福田道雄さんが、8月17日にフンボルトペンギンを空路（羽田ー富山）携帯し、翌18日にイワトビペンギンを運搬しました。

◎現在の問題点と対策

当館で唯一の子育てペアの1羽（オス7番）が平成11年8月14日死亡したため、子供を育てられるペアがいなくなり、他の園館から受精卵による新しい血統の導入は難しくなりました。

子供を育てられるペアがないので、正常なペアの育成とともに、正常ペアの卵を利用して近親ペアに抱かせ子育てできる親を作っていきたいと考えています（通常1回の産卵で2個の卵を産むので、その1個を利用する）。

また今後、今年入ってきた新しい血統（3羽）がペアを作り、繁殖することを期待しています。

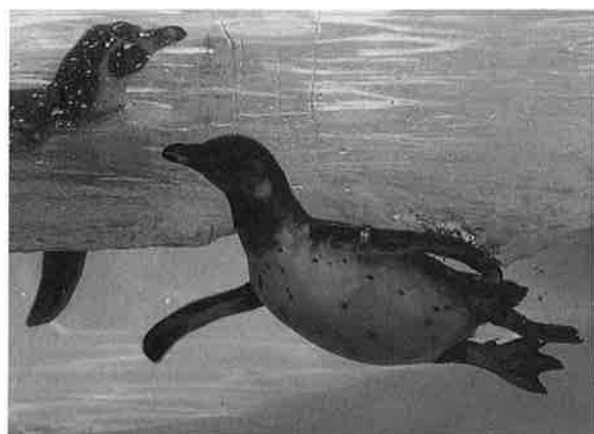
— 稲村 修・山崎美鶴 —



新潟市水族館から運んできた受精卵



親に育てられている雛



プールで元気に泳ぐ雛



葛西水族園に行ったイワトビペンギン